

発表資料1 『理想の保育を目指しての金沢エクステンション』

2011. 5. 22

保育環境評価スケール金沢エクステンション作成チーム『フリーダム』

1. 保育環境評価スケールと日本の保育との乖離

保育環境評価スケール（以下、スケール）を用いて実際の日本の保育を評価してみると、実態と乖離した点がいくつか感じられた。その違和感の中でも特に重要だと感じられたのは、保育の中での価値観、しかも日本の保育ではかなり大切だとされているものが抜け落ちているというものであった。

具体的には、

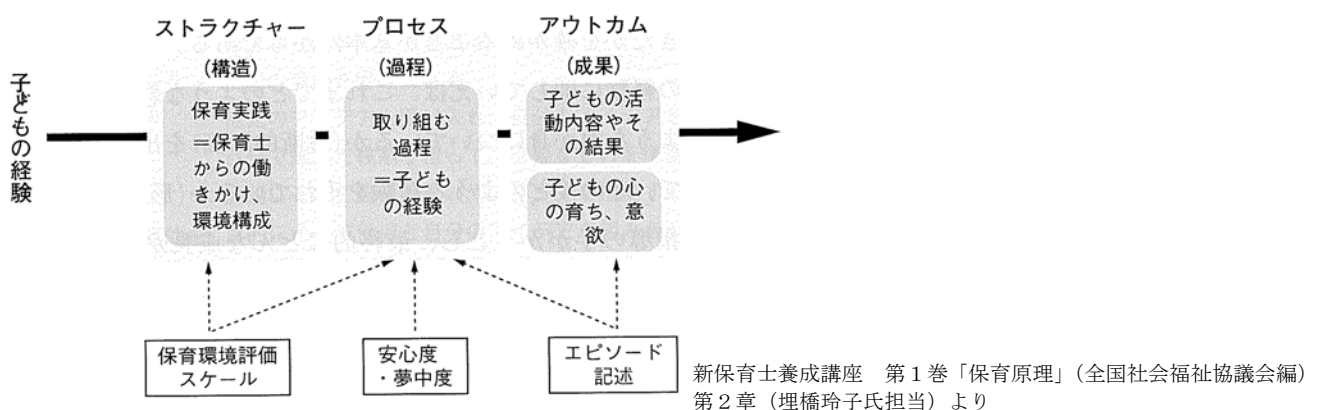
- ① 日本の年長児のレベルと合わない
 ⇐入学年齢が違う
- ② 日本の（保育）文化との違い
 ⇐保育や教育が目指す目標や価値が違う

2. 新しい評価項目作成

そこで、スケールと現実の日本の保育の乖離を埋めるべく、新しい評価項目を追加作成することにした。その際に、そもそも『保育環境評価スケール』（以下、『スケール』）は保育の評価のうち、下図に示されるように、主に保育のストラクチャー（構造）とプロセス（過程）を評価する指標として位置づけられる。その特性を踏まえ、以下のような手順において進められた。

図 1

評価の枠組み



1. 作成の流れ

- ① 『理想の子ども像』—ゴール（目標）：目指すアウトカム（成果）—の設定

スケールは、保育の『構造』もしくは『過程』を評価するための道具であるが、そもそも、保育の構造や過程はどのような保育『成果』を目指すかにより規定されると考え、まず、われわれチームにとっての、日本における理想の保育像を『年長児(就学時)の理想の子ども姿』(以下、『子ども像』)として具体化(図2参照)した。

図 2

I	コミュニケーション能力のある子
II	学習意欲のある子 自然・社会への興味・関心のある子 社会認識のある子
III	創造力豊かな子
IV	自己肯定感があり・思いやりのある子
V	自分で身を守れる子

② 『理想の子ども像』を達成するためのストラクチャー（構造）・プロセス（過程）とスケールの評価項目との比較

次に①で定めた『理想の子ども像』を目指すために、どのような保育の『構造』や『課程』が必要かを、保育所保育指針（以下、『保育指針』）を参考に考えた。保育指針の基本的な構成は、5領域と呼ばれる、保育所における教育分野のを5つのカテゴリと、そのカテゴリ別定められた、『ねらい』（＝保育目標）と『内容』（＝保育の構造（環境、子どもの経験内容、保育者の援助配慮等）からなっている。

具体的には、保育指針第3章「保育の内容」に記されているが、その中の『内容』から、我々が定めた、個々の『子ども像』にふさわしいものを選択し、スケールの評価項目と比較することで、『子ども像』にふさわしい『構造』や『過程』がスケールに満たされているかどうかを検討した。（図3参照。ただし、今回は『子ども像』の一部のみ検討）。

③ 新しい評価項目の作成

②の結果、修正が必要な項目は修正を加え、不足していると思われる項目は新たに項目を作った。（資料1参照）。

④ 新評価項目による評価・検証・修正等／新しい章の作成

修正若しくは新規に創出した評価項目を実際の保育現場の評価に使用する中で、適宜修正を行った。また、埋橋玲子氏のアドバイスにより、新しい評価項目は原則として、既存の章の中の追加項目とするのではなく、独自の章を新設（エクステンション）し、その章の下に体系化し整理した。また、章をつくるにあたっては、日本の保育の特徴を分かりやすく表現できる構成、名称を工夫した。

図 3

章	章名
A	丁寧さ
B	食育
C	環境を識る
D	協同的学び

3. 今後の方向性

上述の通り、『子ども像』そのものに手付かずで、評価スケール未検討のものがあるため、まずはその検討を行いたい。その延長線上では、スケールの乳児版も同様に検討の対象にしたい。また、いずれのスケールにおいても、どのような『子ども像』を保育の中で目指すのかが、出発点である。ここでは、詳述しなかったが、チームの中で、『子ども像』（目標）を定めるには相当の議論を費やしたし、『子ども像』決定後も、それを目指すための『構造』や『過程』を巡る議論もさまざまな視点が提出され、やはり相応の時間を必要とした。

このことが示すのは、どのような『子ども像』を目指すかは、個々の保育者や保育所において一様ではない。また、仮に同様な『子ども像』を掲げたとしても、そこに至る『構造』や『過程』のアイデアは一律ではない、という事実である。また、その相違が相互の保育観を検証することに貢献し、保育の質の向上につながる、ことも見えてきた。よって、この様なスケールの検討をより多くの保育現場を巻き込んで行わうことにより、より広汎なあるいは深い保育の質の検討が期待できると考えている。